

### 第3回 はりまや橋周辺から高知城までの東西軸エリア 活性化プランフォローアップ委員会議事概要

日 時：平成25年5月30日（木） 13:30～15:30

場 所：総合あんしんセンター 3階 中会議室

出席者：はりまや橋周辺から高知城までの東西軸エリア活性化プランフォロー  
アップ委員会委員

委員長	青木 章泰
副委員長	広末 幸彦
副委員長	岡内 啓明
委員	古谷 純代
委員	木村 祐二
委員	早川 賢治
委員	大西 みちる
委員代理	森岡 憲夫
委員	松田 誠祐
委員	杉浦 俊彦

高知市

商工観光部長	中澤 慎二	
商工観光部理事	門田 良章	
商工振興課副参事	吉田 光輝	外

高知県

総務部長	小谷 敦	
総務部副部長	北村 強	
政策企画課企画監	中村 知佐	外

#### 1 開会

#### 2 高知県総務部長、高知市商工観光部長あいさつ

#### 3 委員長の選出

西山委員長の退任に伴い、はりまや橋周辺から高知城までの東西軸エリア活性化プランフォローアップ委員会設置要綱第3条第3項に基づき、委員の互選により青木委員が委員長に就任した。

## 4 議事

### (1) 東西軸エリア活性化プランの取り組み状況について

【資料4】市商工振興課説明

【資料5】県政策企画課説明

#### ◆意見交換

##### 【委員】

「まんが甲子園」と「まんさい」の取り組みに長年携わってきたこともあり、東西軸エリア活性化プランの策定に、まんがプロジェクトチームのチーム長として参画するなどの関わり合いを持って現在に至っている。

「まんが甲子園」と「まんさい」は、毎年中身を見直す一方で、残すべきところは、残すと言うことで取り組みを進めてきたと思っている。今年の「まんさい」は、はりまや橋商店街として「名探偵コナン」の謎解きラリーの開催を検討している。「名探偵コナン」の作者青山剛昌氏は、鳥取県出身であるが、3月に高知県と鳥取県が「まんが王国友好通商条約」を締結したこともあり、よいタイミングだと考えている。また、秋頃には「かるぽーと」で「名探偵コナン」の展覧会を行う予定である。特に、展覧会は、多くの集客が期待できるイベントなので、はりまや橋商店街だけではなく、他の商店街への誘客につながるよう工夫していきたい。「まんがでまちおこし」を今までにないアプローチでできるよう検討を進めている。

帯屋町二丁目の旧ダイエー跡地に、民間による住居と商業施設の複合施設の建設が予定されているとのことだが、建築物のデザイン面での連携はされているのか。また、西敷地の検討がどこまで進んでいるのか、教えていただきたい。

#### <事務局>

建築物のデザインについては、新図書館等複合施設の方が先に設計に着手し、それぞれで検討しているが、隣接する遊歩道については、調整しながら設計を進めている。

西側の敷地は、高知市中心市街地活性化基本計画検討委員会の中で西敷地検討部会を設置して議論し、「民間活力を活用」と位置づけしているところである。現在は、旧迫手前小学校の取り壊しを進めているが、この取り壊しが終わって新図書館の建設が始まると、西敷地の東半分を建設工事のヤードとして使用し、西半分を暫定的に多目的広場として整備する。こうした活用をしながら図書館建設後に民間活力の熟度が高まれば、施設等

の整備といったスケジュールになると考えている。

#### 【委員】

高知市観光協会は、高知よさこい情報交流館の運営に携わっており、入館者数は、5月28日現在で1万3千人を超えており、当初の目標を大きく上回っている。今後も、よさこい情報交流館が一つの起爆剤となり、まちなかの賑わいにつながるように取り組みを進めていきたい。今後の取り組みは、よさこい情報交流館での写真展、よさこい踊りの3D放映の内容を工夫するなどを行うことを検討している。また、はりまや橋商店街と一体となったよさこい踊りによるにぎわいづくりを検討している。例えば、現在、日曜日に高知駅前ではよさこい踊りを行っているが、定期的によさこい情報交流館の前でも行うなどの取り組みを検討している。

#### 【委員】

旧高知市少年補導センターの跡地はどう活用していく予定なのか。

#### <事務局>

高知市中心市街地活性化基本計画に登載しているが、この跡地をまちの活性化に繋げていきたいと考えている。昨年プロポーザル方式で事業予定者を決め、現在、事業予定者が活用について検討中である。

#### 【委員】

現在、計画している商店街の事業について説明したい。まず、情報発信の取り組みについては、今年は「OBIBURAMAP」を商店街の中で使えるマップにしていこうと考えている。このマップが販促のチケット、サービスを受けるきっかけづくりや、WEBの導入等を計画している。

タウン誌に関しても年2回程度の発刊であるが、商店街の取り組みをより深く詳しく充実した形で利用者に伝えていきたい。

また、はりまや橋商店街は、子どもたちのよさこい踊りをやろうと考えている。商店街として一体となって、よさこい情報交流館と共に地域を盛り上げていこうということで、各商店街の青年部と連携していく予定である。

「てんこす」は、昨年10月で補助金が終了し、なんとか自立して運営している。「てんこす」は、中心市街地活性化のための店舗であることから、現在開催しているコミュニティ講座等は今後とも継続していくことで、講師等にご協力をお願いしている。クルーズ客船の乗客へ等、県外

の方には今後も PR していきたい。「てんこす」には、全国からのメッセージを記載した大きな鳴子を展示するなど、よさこい情報交流館とあわせてお客さんの回遊性を高めていきたいと考えている。

<事務局>

情報発信は、これまで単発で行っていたが、商店街が取り組むことで、いろんなイベントを連携して発信している。それぞれが相乗効果として盛り上がりを見せているので、今年も継続していただけるとありがたい。

【委員】

特に、「OBIBURAMAP」が使えるマップになるようリニューアルするという点が重要なので、ご利用についてよろしくお願ひしたい。

【委員】

現在、「龍馬パスポート」が大人気なのでそれをイメージしたリニューアルを考えている。

【委員】

商店街ならではのサービスや WEB を連携させることで、いいサービスに結びつけることができると考えているのでぜひご協力をお願いしたい。

【委員】

駐車場の利便性の向上のところで、公共交通機関の乗車券を提供するサービスが平成 24 年度で約 8 千枚も利用されており、本当に良い取り組みだと思う。対象店舗も約 150 店舗ではないのか。継続して行くと説明があったが、中心市街地に人を呼び込むには非常にいいアイデアだと思う。

委員からも同様の発言があったが、平成 27・28 年度には、新資料館や図書館の開館など、まちの姿が大きく変わる。まちの全体のデザインという観点から、外国のような派手な色彩の建物を規制する等のまちづくりを検討しているのかお伺ひしたい。

また、高知城の案内板について、外国から来られるお客様に対してどのような案内板となっているか。

<事務局>

委員の発言にもあったように、平成 27・28 年度は、新資料館や新図書

館の開館が予定されていることや県立大学の学部の新設で学生が千人程度増えるということも聞いている。高知市は景観計画を作っており、派手な色などは使えないように規制している。今後、学生用のマンション等の立地が予想されるが、一定の調和はとれると考えている。

公共交通の利用促進については、対象店舗は約 150 店舗で、利用枚数も約 8 千枚にのぼり、好評だと聞いている。東西軸エリア活性化プランの検討の段階で、金沢市など他県の事例を調べてみたが、その地域と比べても進んでいるという印象を持っている。今後も、対象店舗を拡大していただけたらと思っている。

高知城の案内板の多言語化については、屋外の説明板は日本語、英語、ハングル、屋内は日本語のみである。但し、パンフレットは日本語、英語、ハングル、中国語、台湾語の各言語版を作成している。対応が十分ではない部分もあることは認識しているので、今後も多言語化に努めていく予定である。

## 【委員】

東西軸エリア活性化プランの取り組みは成果が出ていると感じている。私は、宿泊業に従事しているが、特に「龍馬パスポート」は大人気だと感じている。観光客が持つパスポートがステージアップしたのを見たり、特典の一つである宿泊券の利用が、ここ 3~4 ヶ月非常に多く、自分の仕事を通して取り組みに大きな成果が上がっていると感じている。

県は、インバウンド観光に力を入れており、台湾からの誘客を進めている。2月の台湾のランタンフェスティバルによさこい踊りも出場した、日本全体で 16 チームだったが、そのうち高知県から 2 チームがよさこい踊りを行うなど、PR を行った。今後、台湾からの誘客を進める場合は、言語の問題があるので、英語はもちろんだが、台湾語での案内板の表示などがあればいいと思っている。

にぎわいの創出であるが、平日の日中のイベントには、高齢者、女性、子連れが多い。ちょっと休む場所が必要なので、ベンチがアーケードにあれば、非常に便利だと感じている。

クルーズ客船の入港については、宿泊を伴わない 7~8 時間の滞在であっても、ちょっとしたふれあいの場を設けたことは土佐人ならではないか。このような心配りがあるとまちなかに人が集まるのではないか。また、喫茶店が減って休む場所がなくなっているの、コンビニエンスストアで飲み物を買って休めるような場所があればいいと思っている。

東西軸エリア活性化プランとは直接関係はないが、県とタクシーとの間で、おもてなしタクシーという取り組みを行っている。観光客へのおもてなしや、運転手の資質向上につながる取り組みだと考えている。タクシーを使う観光客の皆様に、気持ちのいいおもてなしをすると来県者も増えるのではないかと。

#### <事務局>

インバウンドの関係では、商店街でデジタルサイネージというタッチパネル方式の案内板を設置している。大橋通りの真ん中と壺番街の東側の二箇所商店街の情報や観光情報等を盛り込んで、日本語、英語、韓国語、中国語（2種類）で案内している。

商店街の休憩のベンチは、京町、新京橋に設置している。その他のアーケードにも邪魔にならない程度で置いている。こういった取り組みは、特に高齢者の方の役に立つと感じている。

クルーズ客船の乗客に対し、商店街の女性部が接待していたことが印象的。高知は、長崎ほどでないにせよ、中国をはじめとした外国の観光客の方も来られている。

おもてなしタクシーは、高知駅周辺に配置しており、ここは、高知市中心市街地活性化基本計画において、「おもてなし拠点」と位置付けている。県外客に気持ちよく利用してもらうのが非常に大事だと思っている。

#### 【委員】

東西軸エリア活性化プランで、活用されていない場所がはりまや橋の地下道、はりまや橋公園であり、脚光を浴びていない。地下道は女性の一人歩きは危ない状況。はりまや橋公園は、ペギー葉山さんの歌碑が建立されたが、十二分な活用ができていない。また、うるおい、緑という観点からも帯屋町の中心商店街を補完する更なる樹木という視点もあるし、観光分野で高知は夜のナイトスポットは弱いという印象を持っている。それを補完する意味で、例えば、はりまや橋公園で年中イルミネーションが輝いている仕掛けが必要だと思う。

地下道の活用法であるが、「まんが甲子園」の作品の展示場所の行き先については検討が進んでいないことから、展示場所をまんがの聖地にする必要があると考えている。世界の聖地を見れば、寺、神社、壁などがあげられるので、はりまや橋地下道についても、まんがの神社や壁のような仕掛けをつくり、そこに「まんが甲子園」の作品を展示すれば、上はナイトスポットで華やかであるし、地下道はまんがでフル活動できる

ので全部のおさまりがよくなるのではないか。これは、関係者の合意ができれば完成すると思われるので、是非ご検討をお願いしたい。

観光資源として非常に大事な日曜市の全体のデザイン、コーディネート、プロデュース等を今だからこそやる必要がある。現在、空きコマがあるが、今のままでいいのかどうか、品揃え、観光客目線の高さ、全体のしつらえ等についてどのように考えていくのかを優れたデザイン能力を持つ方の見識のある意見を聞きながら考えていく必要がある。この話は、フォローアップ委員会が特に検討していかないといけない。

はりまや橋地下道とはりまや橋公園については、「てんこす」から、よさこい情報交流館を直線で結ぶ線なので、もう一度その活用を考えていかないといけない。

#### <事務局>

はりまや橋地下道におけるまんが活用については、東西軸エリア活性化プラン検討委員会のプロジェクトチームにおいても、「まんがの聖地、拠点が必要。」という意見が出た。検討をする中で、まんが甲子園の会場でもある「かるぽーと」にモニュメントを移そうとしたが、高知市との調整の結果、難しいということになり、現在の追手前高校の隣の通りのままとなっている。「まんが王国・土佐」推進協議会でも同様の話があったので、今後、推進協議会の場でもご意見を参考に検討していきたい。

#### 【委員】

「純信・お馬」の話も考えてみれば、まんが的な話なので、はりまや橋という場所にふさわしい要素だと考えている。また、中心商店街の他は、高知大神宮を活用していく余地もあるのではないか。観光・文化がにぎわいなど連動していくことが大事だと思っている。

#### <事務局>

日曜市の将来については、大きな課題と考えている。昔は出店者が争って出店していた時期もあるが、現在は空きコマもある。今後、10～20年先を考えると心配。日曜市は、市民の生活の市ということもあるが、出店される方の支えもあったことから関係者の話も伺った上で、今後については検討していきたいと思っている。個人的には、来年度に検討の場を持った方がいいと考えている。

はりまや橋公園は、「てんこす」とよさこい情報交流館を一本で結ぶ重要な拠点なので、その振興については検討しないといけないと考えてい

る。

#### 【委員】

県・市で商工観光以外の部署や商店街のメンバーが連携して行う会は、これ以外にないので、素晴らしい取り組みではないかと思っている。また、プランが着実に、「プランに沿った形で進行」としているが、実際に、商売をしている商店街の目から見ればよく実感できる。商店街の周囲の環境も、旧追手前小学校も取り壊しが行われるなど徐々に変わってきている。商店街の総会でも、「我々がこれから頑張らないといけない。」という声を聞くので、この計画がプラスになっていると感じている。プランを策定しただけで終わりではなく、それらを踏まえ個店がプラスに動くことが大切だと考えている。各個店の新陳代謝や業種転換も進んでおり、チャレンジショップ等も様々な形でフォローしていただいているので、新規での出店も売上げが上がっていると聞いている。チャレンジショップは、出店してもこれまでと異なり長期間継続している。これをうまく回して、ハード、ソフトの整備もしながら、中心市街地活性化基本計画で計画されている投資が増えれば、商店主はやる気になると思う。

個店の売上げを上げるために、商店街の100円商店街や11月に商工会議所が中心に、まちゼミをやっていきたいと考えている。これは、個店の店主が、商売で得た知識をお店でゼミナールをやることで、個店の売上を上げるために、取り組みを行う予定であるのでフォローをお願いしたい。

中央公園のイルミネーションフェスタを予定しているが、はりまや橋公園のイルミネーションの期間をもう少し伸ばして欲しい。中央公園のイルミネーションフェスタは期間が11～1月までであるが、はりまや橋公園は12月から取り組んでいるので、極力連携してやってもらいたい。冬の大きな集客になっているので、ご支援をお願いしたい。

#### 【委員】

イルミネーションフェスタは、行政が一方的に負担するのは荷が重くなる。市民の作品の表現の場をとという形を徹底すると、出展したい人もいないのではないかと。そんな挑戦もしてみると、奥行きや広がりが出るのではないかと。

#### 【委員】

はりまや橋公園周辺は見直しが必要。子どもだけに行かすのは、危険

な場所、車いすは通れない。交流の観点からはよくないので検討して欲しい。

#### <事務局>

この場では回答は差し控えるが、ご意見は、お伝えして内部で検討する。

#### 【委員】

高知城を拝見したが姿のいいお城で、龍馬ファンとしては龍馬が見ていた当時と同じお城が見られるのは感激している。剪定なども適切になされており、追手門や木曜市からの眺めも非常に美しいと思う。

様々な指標からは、経済規模は小規模な県として認識していたが、商店街を歩いてみると、思った以上に空き店舗が少ない。まだまだ可能性のある商店街であると感じている。

日曜市は、これだけの品質の高い物が安い値段で売っているところはあまりないのではないか。ただ、観光客としては、安くておいしそうな品でも、観光の最終日は別として、通常は持って帰りにくい。徳谷トマトのようなブランド品でない限り、例えば 100 円で売っているイチゴを 800 円かけて送るのは見合わないと思う。それを解消するには、例えば、東京では、一日観光バス旅行が普及している。高知県は、地上交通に少し難があると聞いているので成り立つかどうかは分からないが、観光客が最終日に日曜市に寄るようなルートを設定すれば、一助となるのではないか。

日曜市で売っている農産物は農薬をあまり使っていない農産物という印象を受けたので、健康志向が強い層にアピールしてもいいのではないか。

#### 【委員長】

まちの美しい景観は、四季を感じるまちづくりを創出することが基本でないといけない。歩いて落ち着く街並み、美しいまちなみが形成されているかどうかは重要である。具体的には、高知城の周辺がそれにふさわしい景観であるかどうかである。そういった街並みの全体感を追求しないと個々の積み上げだけでは、競争優位性は劣ると思っている。

主要な目標の達成状況についても、イベントの積み上げの結果でしかないという印象を受ける。これでは、ずっとイベントを行わないといけない。この目標は、基本的な取り組みで達成すべき数字ではないか。イベントはプラスアルファにすぎない。数字だけ追っていると、手段が目的化する。

まちづくりの発想の転換が必要だと思う。例えば、日本一の女性トイレをつくることや商店街に託児所を設置し、待機児童をゼロにしていく

など、実現可能性も考えないといけないが、他にないものを常に考えていかないといけない。また、各々の取り組みを有機的に結びつけるような考え方が必要だと思う。

資料を見ると様々なイベントを行っているが、年間のスケジュールでは、イベントの谷間があるはずだが資料からは分かりにくい。例えば、中央公園の取り組みにしても、イルミネーションも冬場だけという印象を受ける。極端に言うと、中央公園の魅力アップとは、スペースの確保の取り組みの話だけなのではないかと思う。それだけでいいのだろうか。

もう少し、計画全体を見直してみるという考え方をに入れていかないといけない。フォローアップして終わりではなく、課題や創造的な考え方を反映しながらPDCAを回していかないといけない。計画をそのままやっていくだけでは、相手との競争優位性が保てない。

まんが文化によるにぎわいづくりについても、この状態ではどこが聖地なのだろうかと思う。いろんな漫画家を輩出したことは事実であるが、まんが文化を売りにするのなら、どこに行っても、まんがが見えるというくらいの取り組みが必要だと思う。商店街をまんが通りにすることも必要なのではないか。例えば、神戸市の三宮商店街は、アーケードの通り道の部分に、10年かけてアートを入れている。このような息の長い取り組みをやっていく必要がある。「まんが甲子園」の入賞者の名前をモニュメントとして展示しておけば、入賞した高校生が後に成長して、子どもを連れて高知を再訪するなどの人生のステージごとに高知に回遊していく仕組みができるのではないか。

まち歩き取り組みについても、先程述べたような美しい景観づくりとも関係するが、生誕地をまわる途中の道筋の風景は、本当にこれで十分なのか。そういう、きめ細かなことをやっていくことが必要。

公共交通の利便性の向上も、100円商店街ができるのなら、100円交通機関という発想が出来るのではないかと思っている。

日曜市の野菜の意見も、東西軸とは関係ないが、他の地域では高速道路のインターチェンジで野菜が売っているところもある。お客様の観点からは、大事な視点ではないかと思っている。

クルーズ客船が高知新港に寄港しても、商店街は案内表示がでていますが、港自体はどうか。高知新港の無味乾燥な港で乗客は何も感じないのではないか。表示や情報発信について、何が抜かっているかの確認などこれまでと逆の視点からのチェックができないといけないのではないか。

<事務局>

このプランは、平成 27 年度末までの計画期間で策定している。計画期間のなかでいかに目標を達成していくかを、皆様方のご意見をいただきながら進めていきたい。商店街や市民の皆様のご努力でイベントを開催できているが、イベントだけでなく、日常的に人々がまちへ訪れることが、トータルでのまちの魅力となる。まちに人が集まる仕組みをやっていく。さまざまなご意見をいただいたが、イベントをはじめ、抜けているところがないのか確認しながら「にぎわい」という目標を達成していきたい。

高知市は戦災や南海地震により歴史的な建築物の多くが消失したため、歴史的な風情を残すまちなみがないのが非常に残念である。しかし、景観に関して、平成 10 年頃から「お城の見えるまちづくり」に取り組み、お城の周りに 28m 以上の高さの建物を規制する制限を課しており、三の丸より高い建物はできないこととなっている。

#### 【委員長】

禰原町が同様の取り組みを行っているので、長い時間をかけてやっていくことが必要。

#### (2) 今後のスケジュールについて

<事務局>

本日いただいた意見を踏まえ、本年度も引き続き着実に取り組みを進めていきたい。

次回、第 4 回フォローアップ委員会については、3 年目の取り組みの成果がとりまとまる来年の今頃、5～6 月頃に開催したいと考えている。

→異議なし。

#### (3) その他

<事務局>

東西軸エリア活性化プランが策定されて 3 年目を迎えている。この間、策定当時の状況での記載となっており、記載内容について見直しが必要な部分が生じてきた。については、本年度の取り組みの状況も踏まえて、次回のフォローアップ委員会の場で報告をしたい。

→異議なし。

## 5 閉会

(以上)